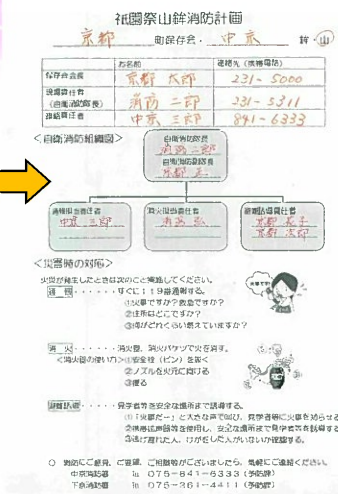
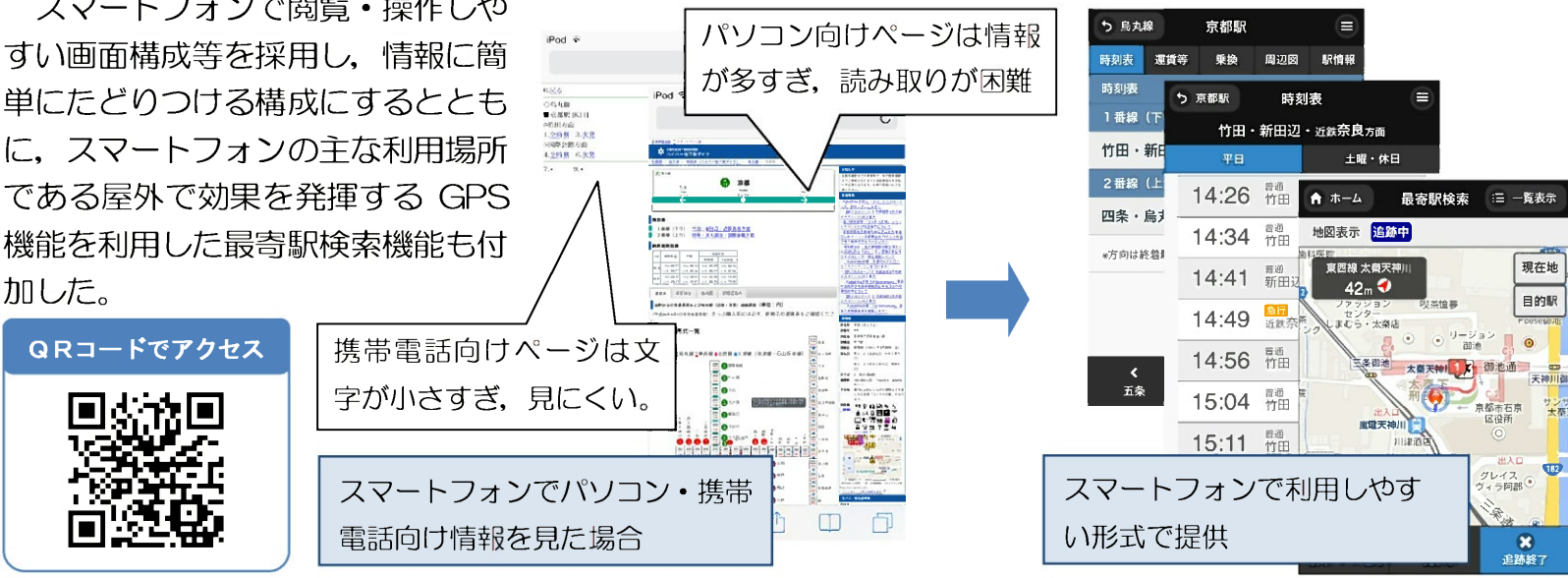


件名	東部まち美化フェスタの開催について
発表者 所属	環境政策局 東部まち美化事務所
改善前 (課題等)	○まち美化事務所職員は、日頃から親切で丁寧なごみ収集を心がけているが、ごみ収集車が、ごみを収集していることは知っていても、「まち美化事務所とはどんなところなのか」知らない人が多い。
内容	○まち美化事務所を「知ってもらい」「来てもらい」「理解してもらおう」きっかけづくりとして、職員の提案によって「東部まち美化フェスタ」を開催した。 ○市民の皆様にも事務所に来いただき、ごみ収集車へのごみの積込体験や各種ゲーム等のイベント参加を通じて、ごみの分別・減量について学んでいただくとともに、事務所の取組を知っていただいた。 ご近所にチラシを配りました。 ごみの積込体験です。 ご家族連れでも参加されました。
効果	○事務所や職員を知っていただき、ごみ減量等について気軽に相談できるきっかけとなった。 ○職員が自発的に事業立案等に取り組むことで、職員の能力向上、意識変化及び自信にもつながった。

件名	「京(みやこ)のみち110番」リーフレットの作成
発表者 所属	西部土木事務所 ， 伏見土木事務所
改善前 (課題等)	- 土木事務所及びその仕事内容の認知度が低い。 - 土木事務所の仕事内容を記載したポスターはあるが、市民に広く周知ができない。
内容	土木事務所は 京のみち110番 皆さんからのご連絡が市民の安心・安全な暮らしを支えています。 橋がこわれている 道路がつかない 電線がこわれている 道路に穴がある 京都市建設局 土木事務所の業務紹介をするだけでなく、「市民との共働」を伝えることで、より市民と一体となった維持管理業務を目指します。 ■主な工夫点 ①見やすさ、親しみやすさ - 文字を少なく、写真やイラスト・マスコットキャラクターを多く ②広報媒体の形 - 持ち運び、配布しやすい「リーフレット」タイプ ③キャッチフレーズ - 京都らしく「京(みやこ)のみち」、目を引く「110番」 ④市民共働 - 安心・安全への意識向上、これからの「共働」を促す文言を掲載 など 今後の展望は・・・ 幅広いPR展開 + 認知度向上による市民との共働や連携を深める ※市民共働の取組を検討し、推進するプロジェクトを3月に立ち上げました。 ※伏見中学校への出張授業にも活用しました！
効果	- 土木事務所及びその仕事内容を広く認識してもらうことで、土木事務所の存在意義や最前線で働く職員の活躍をアピールできるとともに、職員のモチベーション向上にもつながる。 - 道路等の安心・安全に対する市民の意識が高まることで、補修が必要な箇所等の早期発見及び早期対応が可能となり、さらには、道路等の維持管理における行政と市民が「共働」するきっかけとなる。

件名	「住宅用火災警報器 設置啓発 技術指導会」の実施
発表者 所属	京都市消防局北消防署
改善前 (課題等)	消防局では、これまでから住宅用火災警報器の全世帯設置に向け、指導に取り組んでいますが、義務化から2年以上が経過した今でも、未設置世帯（一部設置を含む。）が依然、残っています。 消防学校を卒業して間もない経験の浅い職員は、先輩職員とペアで各家庭へ訪問して市民指導に当たりますが、その後は単独で行うため、指導内容や接遇が適切であるかどうかを検証する機会が今までありませんでした。
内容	住宅用火災警報器の設置啓発における職員の指導の「質」を、より一層向上させるため、若手職員が一般家庭へ訪問した際の設置指導を、ロールプレイング形式で披露する「設置啓発技術指導会」を開催しました。 先輩職員や外部審査員（自主防災会元会長、小学校校長等）の方々にも審査いただき、多方面から意見を取り入れることで、指導内容や接遇の在り方を徹底的に検証し、職員の市民指導能力の更なる向上を図ることとしました。 住宅用火災警報器 設置啓発 技術指導会 3つのコンセプト 1 職員のみだけでなく、外部審査を取り入れることで、市民目線に重点を置いた審査を行う。 2 若手職員（拝命から5年以内）に指導技術等を競わせ、審査結果に基づき、表彰を行う。 3 この企画を署員全員で盛り上げるため、各部署で役割を分担し、組織全体で取り組む。 審査項目 ・円滑な対応 ・業務知識 ・啓発意欲 ・接 遇 技術指導会の想定 ○ 木造2階建て一般住宅に父・母・娘の3人が居住 ○ 住警器が1階の台所に1箇所のみ設置されている世帯 技術指導会  審査  表彰式  上位入賞者を表彰 父役にはこれまでのベテラン消防職員、娘役には女性消防吏員
効果	出場した職員はもちろん、事前指導に携わった職員など、署員全員が住警器の普及啓発の意義、市民対応力の重要性を再確認するとともに、市民指導の「質」を高めるための効果的な手法となったと考えます。また、上位入賞者を表彰することで、職員が切磋琢磨し、職務意欲の向上が図れました。さらに、外部審査員の方から、説明内容や接遇面など市民目線の様々な貴重な意見をいただくことができ、今後の市民指導に活かせるものと確信しております。

件名	山鉾消防計画の作成		
発表者 所属	中京消防署 予防課		
改善前 (課題等)	日本三大祭りのひとつである祇園祭は、例年多くの人出で賑わい混雑し、万が一火災が発生した場合は、大きな被害となる恐れがあります。 多数の人が出入りする事業所などでは、消防法に基づき火災発生時の対応要領について「消防計画」を作成することが定められていますが、祇園祭の各山鉾には「消防計画」のような統一的に定められたものはなく、これまで各山鉾関係者に出火防止を中心とした指導を行ってきました。 そのため、各山鉾において、火災が発生した場合、山鉾関係者が通報や初期消火を行うことについて、具体的な役割分担や手順が明確にされておらず、防火管理体制についても各山鉾間により、認識に温度差がありました。		
改善 内容	これまで - 各山鉾において、定められた統一的な火災発生時の対応要領がなかった。 - 駒形提灯の電線検査や出火防止を中心に指導を行ってきた。 - 各山鉾保存会の自主防火管理体制の認識に温度差があった。 ※左記課題を解消するため  山鉾消防計画作成  導入効果 - 緊急時の連絡体制が統一的なものとして確立され、火災発生時の初動活動の役割分担が明確にされた。 - 各山鉾の会所に計画を掲示することで、地域と消防署が共通した認識を持ち、連携がより深まった。 - 計画が作成されたことにより、積極的に消防訓練を実施するなど、関係者の防火・防災意識が高まった。		
改善 効果	山鉾消防計画の作成から、訓練の実施まで、市民と“きょうかん”し、作り上げたことにより、関係者の方々から「消火器や水バケツの置いてある場所が常に気になるようになった!」「火災発生時に誰が何をするのかははっきりわかり、決められた行動ができて安心だ!」「計画が掲示されていることで、全員の防火・防災意識が高まった!」などの声が聞かれ、貴重な山鉾を守る体制がより一層強化されました。 さらに、この「消防計画」は他の祭礼をはじめとし、地域のイベント等にも応用することができ、主催団体の自主的な防火・防災体制がより強固に構築され、市民や観光客等の安心・安全の確保につながるものと考えます。		

件名	スマートフォン版「ハイパー地下鉄ダイヤ」の開発
発表者 所属	交通局 高速鉄道部 運輸課
改善前 (課題)	従来から、パソコンや携帯電話向けに地下鉄時刻表を公開しているが、どちらも最近普及が進んでいるスマートフォンで利用するには適していなかった。
内容	スマートフォンで閲覧・操作しやすい画面構成等を採用し、情報に簡単にたどりつける構成にするとともに、スマートフォンの主な利用場所である屋外で効果を発揮する GPS 機能を利用した最寄駅検索機能も付加した。 パソコン向けページは情報が多すぎ、読み取りが困難 携帯電話向けページは文字が小さすぎ、見にくい。 スマートフォンでパソコン・携帯電話向け情報を見た場合 スマートフォンで利用しやすい形式で提供 
効果	○スマートフォンでパソコンや携帯電話向けの時刻表を利用していた方を誘導することができた。 ○内部で全て作成したため、外注経費をかけず構築することができた。

件名	木戸邸・達磨堂のPR及びPRイベントの開催
発表者 所属	行財政局 総務部 総務課
改善前 (課題等)	総務課が所管している木戸邸・達磨堂は、京都の歴史や文化を伝える貴重な建物であるにもかかわらず、これまで、市民、観光客等への積極的なPRを十分に行っていなかった。
内容	木戸孝允の別邸であった建物のうち、茶亭として利用していた建物及び孝允の子・忠太郎のだるまコレクションを収めた達磨堂とその収蔵品については、昭和18年に本市が寄贈を受け、以後、本市が管理している。 これらの貴重な施設について、新たな予算をかけず既存予算の範囲でPRする方策を検討し、広報担当部局とタイアップして、本市の既存事業の枠組み（「きょうと動画情報館」）を使ってPR動画を制作した。 また、その翌年度には、実際に建物に足を運んでいただき、施設の存在を知り、その魅力に触れ、親しんでいただくためのPRイベント「夕涼み・鴨川クラシック」を開催した。 動画の制作、PRイベントの開催のいずれにおいても、企画や運営を業者に一括委託する一般的な方法を採用せず、職員自らが企画、運営、出演、進行等を行い、多くの方に興味を持っていただけるような内容の工夫、及び経費を最小限に抑える工夫を行った。
効果	○ PR動画については、平成24年12月からの情報発信以降、平成26年3月時点で再生回数約2,000回という比較的多くの視聴を得ており、これまであまり積極的にPRしてこなかった木戸邸・達磨堂を、より多くの市民、観光客に知っていただくことができた。 ○ 平成25年9月に実施したPRイベントは、新聞にも取り上げられ、事前申込みの受付開始翌日には定員を超え、その後も次の開催予定や施設の概要について問合せが多数寄せられるなど、多くの方々に関心を寄せていただくとともに、来場者アンケートでは高い評価をいただいた（当日の来場者：延べ178人）。

件名	蹴上浄水場創設 100 周年に係る取組について
発表者 所属	上下水道局水道部蹴上浄水場
改善前 (課題等)	蹴上浄水場をはじめ，京都市の3つの浄水場は「危機管理上の観点」から立入禁止であり，なかなか市民にとって身近なものになっていなかった。
内容	若手職員が中心のプロジェクトを立ち上げ，自らが能動的・積極的に企画し，新しい発想を提案する。 ＜具体的な取り組み＞ ・つつじの名所として「いかに綺麗に咲かせて魅せるか」を提案する。 ・発想を転換して桜の記念植樹を行う。（御衣黄（ギョイコウ）） ・ホームページで情報発信する。「浄水場バーチャルツアー」など ・新たなイベントを企画する。 
効果	蹴上浄水場の魅力を引き出すことで，水道事業をより身近に感じてもらう。 岡崎地域周辺の活性化について一役を担うことができる。

件名	より良い監査事務局を目指して！全員で考え行動するプロジェクト
発表者 所属	監査事務局
改善前 (課題)	監査事務局の組織・職場運営を進めるにあたって、課題の洗い出しや対策案の検討、実行に至るまで、職員の意見、知識、アイデア、マンパワーを最大限に反映・活用することで、風通しがよく、改善意欲に満ちた、実行力のある局組織・職場を作っていく。【監査事務局 27名(局長1名、次長1名、課長3名、課長補佐・係長11名、係員11名)】
改善 内容	全職員へのアンケート (24年度) ■全職員へアンケートを実施 (24年12月) * 監査事務局の[業務],[組織],[人材],[執務環境],[職員交流]について問題意識や改善アイデアなどを職員が自由に記載 ■アンケート回答結果を全員へ配信 (25年1月) ■アンケート回答結果を分類・整理 (25年2月) * 回答結果(99項目)を3つの取扱い方法に整理 ①対策を(ただちに)実行すべきもの → 実施 倉庫整理, ホワイトボード改善, 職員厚生 の充実, 人材育成の強化(25年度)等 ②対策案や課題の有無について検討を要するもの ③その他(意見として受け止めておくもの) 「監査事務局 課題と対策」まとめる きょうかんプロジェクトチーム (25年度) ■3つの「きょうかんプロジェクトチーム」を設置 全職員参加で課題や対策に取り組む(25年5月～12月) A 「監査の実効性の向上」チーム * 監査の結果が事務処理等の適正化に有効に活用されるよう、効果的な対策を検討する。 → 7回開催。監査で指摘しても同じ誤りが発生する原因・背景を探り、対策案を検討して報告書を作成。 B 「業務マニュアル等の検討」チーム → 5回開催。「定期監査」業務のマニュアルについて、たたき案を基に意見を出し合い完成させ、活用。 C 「業務内容の点検」チーム → 20回開催。業務・職場の課題を議論し、①文書発送ルールの改正 ②問合せ等応対記録の作成③ドックサーブの整理 ④傘立ての整理を提案、実施。
改善 効果	①多くの職員が普段感じていながら、なかなか顕在化できなかった職場の様々な課題を出し合い、局全体の議論へ導くことができた。 ②職員が自らの業務を見つめ直す機会を持つとともに、他の職員の意見により新たな気づきや発見をすることができた。 ③改善案を実際に実現できたことで職員に達成感が生まれ、「やれば実現できる」という改革意識を芽生えさせた。 ④普段、関わりの少ない職員同士が、チーム活動を通して理解を深め合い、担当業務を越えた職員交流を図ることができた。

件名	コミュニケーション“力”アッププロジェクト
発表者 所属	上下水道局下水道部下水道建設事務所
改善前 (課題等)	コミュニケーションの充実を図り、より円滑な業務推進を目指す。
内容	下水道建設事務所は下水道工事の施工監督業務を担っている。施工に際しては地域住民や維持管理部門及び受注業者の間で十分な打ち合わせを行い、トラブルのない円滑な施工が必要である。 また、監督職員間においても関連する工事については十分な打合せを行い、円滑な施工を遂行するとともに、担当外工事についても、人材育成の場と捉え積極的に学習を促す。 ◆ 円滑な業務の推進 ・維持管理部門や工事関係者と十分な打合せを行い円滑な施工を目指す。 ・スケジュールボードを積極的に活用し、工事の進捗状況を周知することで、関連する工事との調整に役立てる。 ・担当工事の枠にとらわれず、担当外工事についても技術の継承を目的とする積極的なコミュニケーションを行う。 ◆ 下水道工事に伴う市民サービス向上 ・地域住民の理解と協力を得るため、工事内容を十分説明し、様々な問い合わせや要望にも、丁寧に速やかに対応する。 ・市民サービスの向上を目指し、工事現場で青空美術館等を開催し、イメージアップに努める。
効果	コミュニケーション“力”アップにより、さらに円滑な業務推進が図られている。



＜青空美術館＞